

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

# 設立財団ニュースレター

Vol. 22

2021年2月28日発行

## ■ 「知床ネイチャーキャンパス・ネクスト」を開催 ■

知床ネイチャーキャンパスは、野生生物の科学的保護管理が展開されている世界遺産知床地域とその周辺地域で蓄積された成果を生かし、保護管理の専門家を育成する教育プログラムです。講師には知床世界自然遺産科学委員会の委員をはじめ、生物多様性保全や野生生物保護管理に関し、高い実績を持つ教員・研究者・専門家を招聘し、まも生かされます。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面・集合するプログラムを取りやめ、オンラインによるプログラムを開催することとなりました。対象はこれまで受講いただいた方とし、さらなるスキルアップと最新の知識や動向を学ぶ「ネクスト」プログラムとして開催します。



Shiretoko Nature Campus NEXT

より深く、より専門的に学ぶ野生生物保護管理

これまでの受講生を対象に  
知床ネイチャーキャンパス「ネクスト」を開催します！

2021  
3.13 ~ 3.14

オンライン講義と  
ディスカッション

参加対象 これまでの知床ネイチャーキャンパス (2016, 2017, 2018, 2019年) の受講者

テーマ 『生物多様性を守るために』  
— 科学的保護管理を考える —  
定員：20名 (先着順)  
受講料：無料

3月13日 (土) 13:30~17:00  
3月14日 (日) 13:00~17:05

講師・プログラムは英語  
(Zoomによるオンライン開催)

主催 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

テーマ 『生物多様性を守るために』 - 科学的保護管理を考える -

- 1 主催 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団
- 2 開催日 2021年3月13日 (土) 午後・14 (日) 午後
- 3 開催方法 オンライン開催 (Zoomを使用)
- 4 募集対象 これまでの受講生 (開催日近くに定員に余裕がある場合は一般の方も対象にします)
- 5 募集定員 20名 (先着順。定員になり次第募集締切となります)
- 6 受講料 無料
- 7 講師 (敬称略)

齊藤慶輔 (猛禽類医学研究所代表・獣医師)

早矢仕有子 (北海学園大学工学部教授)

梶 光一 (東京農工大学名誉教授)

中村太士 (北海道大学大学院農学研究院教授)

敷田麻実 (北陸先端科学技術大学院大学教授)

鈴木正嗣 (岐阜大学応用生物科学部教授)

中川 元 (知床自然大学院大学設立財団業務執行理事)

講師紹介、プログラム内容と日程詳細は次ページをご覧ください。

## 講師紹介



### 齊藤 慶輔

猛禽類医学研究所代表・獣医師  
環境省オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会委員  
著書：「猛禽類学（共訳）」（文永堂出版）、「野生の猛禽を診る」（北海道新聞社）など



### 早矢仕 有子

北海学園大学工学部教授  
環境省シマフクロウ保護増殖検討会委員  
著書：「野生動物の餌付け問題」（共著・地人書館）、「世界のフクロウ全種図鑑」（監修・エクスナレッジ）など



### 梶 光一

東京農工大学名誉教授・兵庫県森林動物研究センター所長  
知床世界自然遺産科学委員会委員  
著書：「野生動物の管理システム」（編著・講談社）「日本のシカ」（編著・東京大学出版会）など



### 中村 太士

北海道大学大学院農学研究院教授  
知床世界自然遺産科学委員会委員 河川工作物 A P 座長  
著書：「流域一貫」（築地書館）、「河川生態学」（編著・講談社）など



### 敷田 麻実

北陸先端科学技術大学院大学教授  
知床世界遺産科学委員会委員 適正利用・エコツーリズム WG 座長  
著書：「地域資源を守って生かすエコツーリズム」（編著・講談社）、「生物文化多様性」（編著・講談社）など



### 鈴木 正嗣

岐阜大学応用生物科学部教授  
「野生生物と社会」学会会長  
著書：「野生動物と社会」（監訳・文永堂出版）、「野生動物管理 - 理論と技術 -」（編著・文永堂出版）など



### 中川 元

知床自然大学院大学設立財団業務執行理事  
環境省オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会委員  
著書：「世界遺産知床がわかる本」（岩波書店）、「オホーツクの生態系とその保全」（共著・北海道大学出版会）など

山路を登りながら

## プログラム日程

| 月日           | 時間帯                        | 時：分      | プログラム                   | 講師     |
|--------------|----------------------------|----------|-------------------------|--------|
| 3月13日<br>(土) | 13:30~13:40                | 0:10     | 挨拶・趣旨説明                 | (主催者)  |
|              | 第1部 絶滅危惧種の保護=人に影響される生息環境=  |          |                         |        |
|              | 13:40~14:10                | 0:30     | 講義 1 絶滅危惧種の保護制度・保全活動の概要 | 中川 元   |
|              | 14:20~15:10                | 0:50     | 講義 2 オジロワシ・オオワシ保護の現状と課題 | 齊藤慶輔   |
|              | 15:20~16:10                | 0:50     | 講義 3 シマフクロウ保護の現状と課題     | 早矢仕有子  |
|              | 16:20~16:50                | 0:30     | 第1部の質疑とディスカッション         | 講師と参加者 |
|              | 16:50~17:00                |          | 一日目終了                   |        |
| 3月14日<br>(日) | 第2部 科学的保護管理とは=世界遺産地域から全国へ= |          |                         |        |
|              | 13:00~13:50                | 0:50     | 講義 4 増えすぎた動物の個体群管理      | 梶 光一   |
|              | 14:00~14:50                | 0:50     | 講義 5 生物多様性を守る河川管理       | 中村太士   |
|              | 15:00~15:50                | 0:50     | 講義 6 利用と保護のマネジメント       | 敷田麻実   |
|              | 16:00~16:20                | 0:20     | 講義 7 野生動物保護管理システムと必要な人材 | 鈴木正嗣   |
|              | 16:20~17:00                | 0:40     | 第2部の質疑とディスカッション         | 講師と参加者 |
| 17:00~17:05  |                            | 全日程終了 挨拶 | (主催者)                   |        |



## ■ 第 1 回自然観察会「西岡水源池」開催報告 ■

理事 鈴木 幸夫

コロナ禍、人のあつまる活動が制約されるなかで、そもそも「野生生物との共生」のために行える活動は何かを考えた。机上でなく、学問や研究としてでもなく、普通の人々が人と野生生物との関係を考えるきっかけとなること。それが自然観察であると、至極当然の結論に至った。そこで、札幌シャチの会のメンバーを中心に、支援者の皆さんや一般の方も参加できる自然観察会を企画した。初回なのでテストランである。

2021年2月21日(日)、北海道の「集中対策期間」が明けける日を前提に1月中旬に日程調整を行い、下見、実施に向けて資料の準備を行った。結果的に対策期間は延長されたものの、「感染リスクが回避できる」条件はクリアできることもあり、予定通り実施した。

当日朝10時、晴天の札幌市の西岡水源池公園の駐車場に5台の自動車が集まった8名が参加。数日前から続いた3月下旬並みの暖気と、風の少ない穏やかな日差しの中でスタート。事前にメールで送っていた資料を改めて紙で配布し、双眼鏡の使い方、野鳥図鑑の紹介、公園の歴史などについて簡単にレクチャーを行って、園内を歩き始めた。ちなみにこの水源池は明治42年に陸軍の軍用水道のために月寒川の流れを堰堤で堰き止めてできた人工池で、水道は1972年に廃止されたが、市民公園として整備され現在に至っている。池の上流側は湿原となり、多くの湿生植物やトンボ類などの昆虫の宝庫に。池には数つがいのカワセミが繁殖し、隣接する自衛隊演習場やゴルフ場などの「緑の回廊」を通じて支笏湖周辺の山塊と繋がり、豊かな生物相を見ることができる。



西岡水源池公園



国登録文化財の取水塔

まずは、遊歩道沿いの樹木の説明をしつつ、融けた雪が凍り付いた階段や登り坂をあがりビジターセンターへ。トイレを借りて内部の展示を軽く見学し、いざ、観察会を開始。建物を出ると、公園外周のトドマツにカラ類の鳴き声が響く。シジュウカラ、ヤマガラを探して双眼鏡を覗いていると、上空に大きな翼が！実にオジロワシである。幸先のよいスタート。悠然と上昇しながら、ゆったりと北の方向に消えていった。そこから周回の遊歩道へ。さっそく、入口付近のトドマツ林でせわしく動き回るエゾリスの姿を発見。その動きやしぐさ、行動をゆっくりと観察して、徐々に近づいていく。エゾリス、シマリスの違いの説明をし、その雪上の足跡を探しながら進んでいくと、さらに2頭出現。その間にもカラ類やカケス、コゲラやアカゲラの声や姿がちらほら。

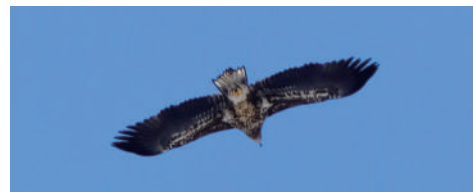


湖岸への下り坂では雪道の歩き方を、下りた水辺では場所により生える樹木種の違いを解説。水源池の湖面はまだ氷と雪で覆われ、斜面から湖面までキタキツネの特徴的な足跡を眺めながらその行動を思い浮かべたり、枯れ木の付け根のキツツキの食痕をじっくり観察したり、エゾリスが濡れた樹皮をしきりと舐めている様が見られたり、エゾリスとカケスのちょっとしたバトル？を面白おかしく眺めたり……。最後尾の数人はキタキツネの姿もチラリ見られた様子。

堰堤の上を歩いて対岸へ。登録文化財のかわいらしい取水塔、その先の水路ではカワガラスの姿を探すも見つからず。対岸斜面の遊歩道では鳥影薄く、比較的単調な行軍となったが、シラカバやミズナラなどの明るい林を気持ち良く歩くことができ、また手前ではあまり見られなかったユキウサギの足跡も観察された。

最後に、沢伝いに駐車場まで下りて記念撮影を行い、愛嬌たっぷりのシジュウカラ、ヒガラ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ゴジュウカラの姿を堪能して、12時30分に解散・終了。当初予想していたマヒワ、カワガラス、ツグミ、シメ、アトリ、マガモ、ダイサギなどは出現しなかったものの、樹木から鳥、獣などの生き物の繋がりを、ある程度は体感していただけた観察会になったのではと思う。

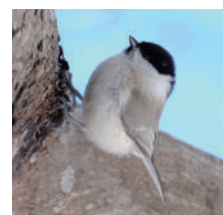
今後も、例えば、事前学習を ZOOM で行う、条件の異なる場所で行う、簡単な調査を伴う観察会にする、といった工夫をしながら継続的に実施していきたい。また、知床でも実施できればと願っている。



オジロワシ



ミズナラの遊歩道



ハシブトガラ



マスクを外して記念撮影

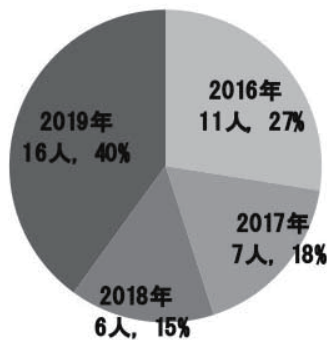


カラ類の説明板を解説

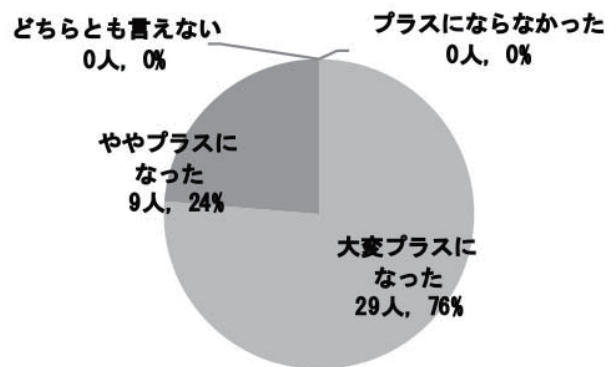
## ■ 知床ネイチャーキャンパス2016～2019年 受講生アンケート結果 ■

これまで4年間の知床ネイチャーキャンパスを受講された皆さんにアンケート調査を行いました。連絡の付かなかった方もいらっしゃいましたが、38名の皆様から回答をいただきました。ありがとうございました。その結果を報告します。

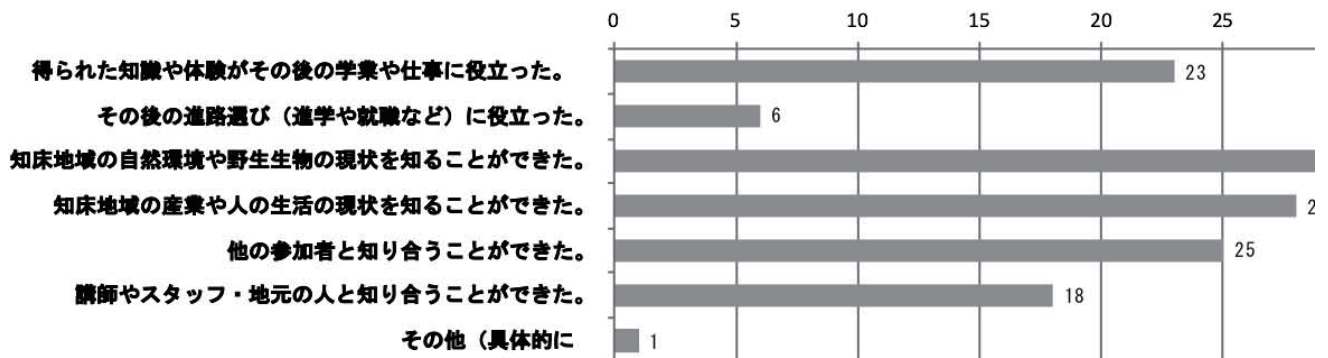
問1 あなたは何年の知床ネイチャーキャンパスに参加されましたか？



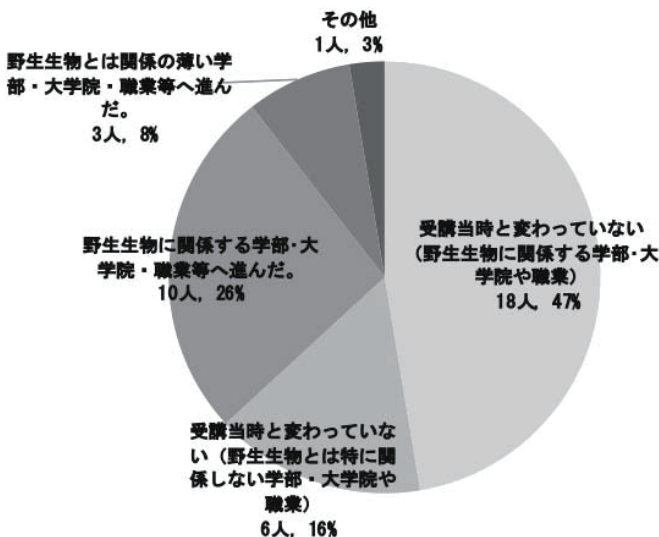
問2 参加したことがそのごのあなたのプラスになりましたか？



問3 どんなプラスになりましたか？（複数回答可）



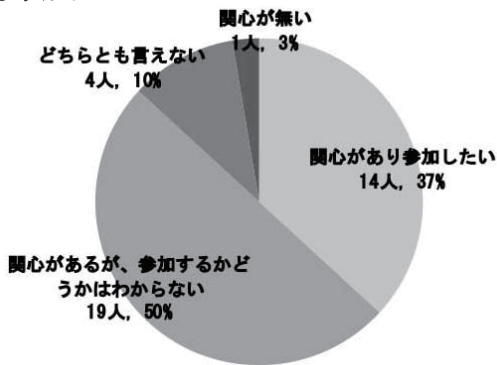
問4 現在のあなた（所属など）について教えてください。



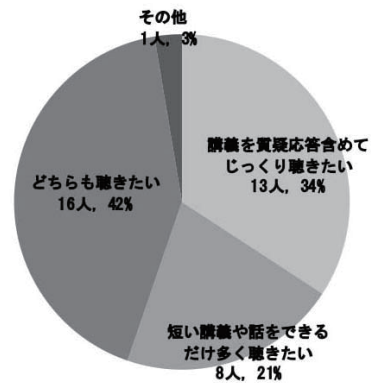
問4で野生生物に関係のある学部・大学院・職業に進んだ」と回答した方に具体的な所属を答えていただきましたが、次のような傾向でした。

- 国外大学農学系研究所助教
- 国内大学野生動物系研究センター
- 都道府県職員
- 企業のシンクタンク生物多様性関連部門
- 大学院（農学系、環境系）
- 大学学部（農学部、理学部）

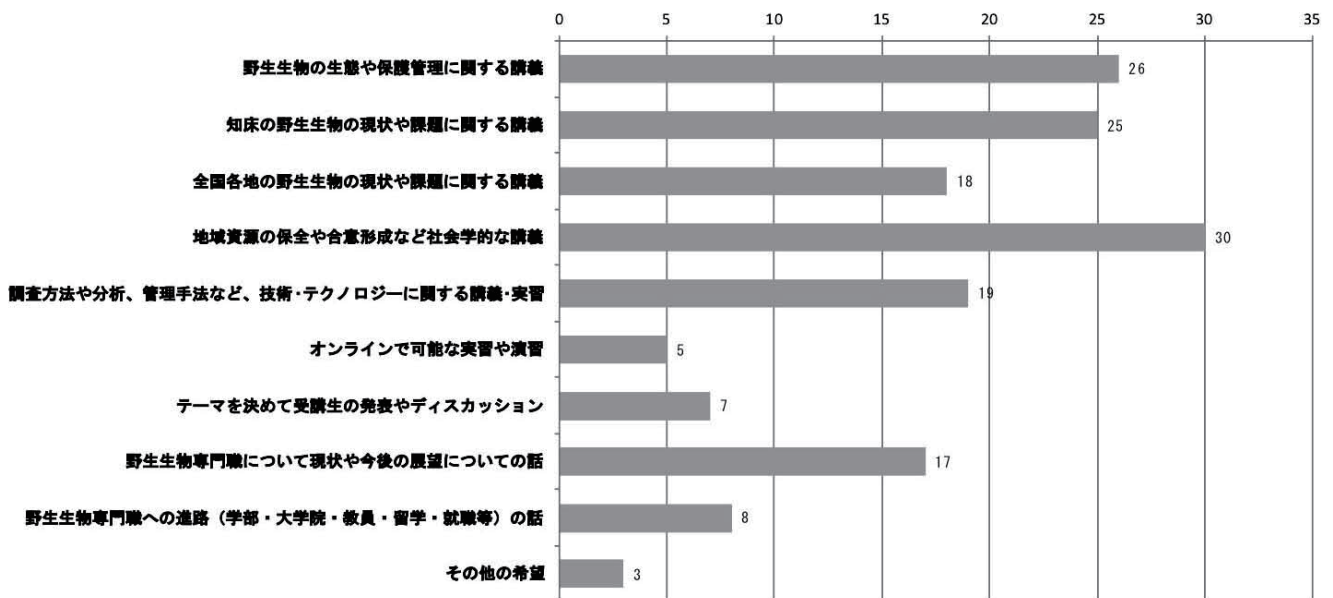
問5 受講生OBを対象にオンラインによる教育プログラムを検討しています。あなたはこのプログラムに関心がありますか？



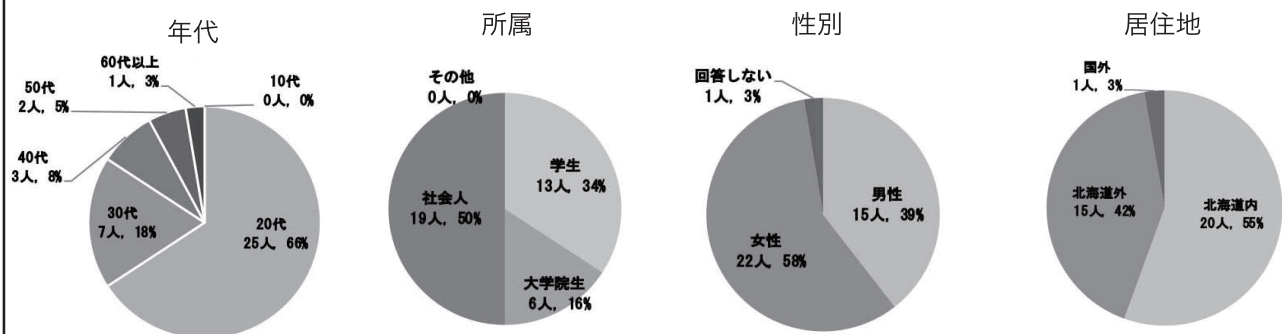
問6 講義の形についての希望はどれに該当しますか？



問7 オンラインプログラムについてどのような内容を希望しますか？



回答いただいた方について



2016～2019年の4回の受講生は合計90名。受講時の所属は大学生・大学院生は64名、社会人24名でした。アンケートは受講時のメールアドレスへ送付しましたが、アドレス変更等もあり、送付できたのは77名、うち39名から回答をいただきました。また、自由記述では受講したい講義内容や、知床ネイチャーキャンパスへの希望等たくさんの記述をいただきました。紙面の都合上紹介できませんでしたが、回答に厚くお礼申し上げます。



# 知床自然大学院大学設立財団のおすすめ本紹介

## はじめて学ぶ 生物文化多様性

敷田麻実 / 湯本貴和 / 森重昌之 編著

講談社 (2020 年) 2,800 円 + 税



「生物文化多様性って何だろう (第 1 章)」で始まる本書は、初めてこの言葉を聞く読者に、わかりやすく解説された入門書です。各章の冒頭には、シンガポールからの留学生ジョンが体験する日本の自然や文化への反応と、日本の大学生アキとゼミのユアサ先生とジョンとのやりとりが漫画で描かれています。一見難解そうな主題にも抵抗なく入って行ける構成になっています。生物多様性の保全が地球環境を守るため、私たち人間の生活を守る上でも最も重要なことは今や常識となっています。そして様々な地域で育まれてきた「文化」もまた、歴史的にも現代においても生物多様性に深く関わっていることを本書から知ることができます。それは自然に囲まれた農山村ばかりでなく、都市においても同様です。かつての乱開発や行きすぎたグローバル化が生物多様性を低下させ、地域文化の衰退を招きました。これからの世界を担う若い方々には、生物多様性と文化の相互作用 = 「生物文化多様性」をキーワードに、人と自然が真に調和した社会を築いていただきたいと思います。(中川 元)

## 小さな地球の大きな世界

### —ブラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発—

ヨハン・ロックストローム、マティス・クルム共著

丸善出版 2018 年、3200 円 + 税



最近、「人新世」という言葉をよく見聞します。大きかったはずの地球が、乱開発や環境汚染を引き起こす人類の活動に耐えられなくなっている現代を表現しており、本書でも多用されています。副題の「ブラネタリー・バウンダリー」は、ロックストロームが 2009 年に提唱した概念で、「地球の限界」を定量的に示したものです。SDGs にも深く関係しています。

「地球の限界」内に収めるには、世界中のすべての人間社会が協力する必要があります。どうやって取り組むべきか？本書刊行の動機は、ボトムアップの人々の協働と物語を共有したいという願いからだったそうです。

値を定めた 9 領域のうち、既に危機にある 4 部門のひとつが生物多様性です。予生物保護管理の課題も、本書が提起する方向性のなかに再度位置付ける必要があると感じます。

ところで、経済成長と環境負荷のデカップリング (切り離し) が困難なことから、なんと著者は見通しが甘かったと 2019 年に自己批判しているそうです (齋藤幸平 2020)。しかし、地球の限界を明確に示して警鐘を鳴らし続けていることの意義は高いと思います。(家村充尋)

## 知床自然大学院大学設立財団は、 活動を支援して下さる **賛助会員、寄附金** を募集しています

当財団の事業は皆様から寄せられ浄財によって実施されています。何卒、一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、当財団は内閣総理大臣の認定を受けた公益財団法人です。当財団への寄付金・賛助会費は、特定公益増進法人に対する寄付金として税法上の優遇措置が適用されます。法人の皆様には損金算入限度額の優遇措置が、個人の方には所得税の税額控除（または寄付金控除）の対象となります。また、遺贈も承っております。詳しくはホームページまたは当財団事務局までお問い合わせ下さい。

### ■賛助会員とは

この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

### ■会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

個人会員：5,000 円  
団体会員：10,000 円  
法人会員：20,000 円  
法人特別会員：100,000 円

### ■加入申込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金 は右記口座への入金でも受付しています）



知床自然大学院大学設立財団ホームページ  
賛助会員・寄付金募集ページ  
<http://shiretoko-u.jp/supporter/>

### ■賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報をお送りします。

### ■寄附金について

寄附金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

### ■税制優遇

当財団への寄付金・賛助会費には税制上の優遇措置があります。

### ■主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号 19940 (普) 10138691  
(※他の金融機関から 店名九九八 番号 1013869)  
北洋銀行斜里支店 店番 452 (普) 3119440  
北海道銀行斜里支店 店番 904 (普) 0530326  
網走信金斜里支店 店番 003 (普) 0284957  
大地みらい信金羅臼支店 店番 003 (普) 1072873

## 設立財団ニュースレター 第 22 号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団  
〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10  
TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773 E-mail [sizendaigaku@wine.plala.or.jp](mailto:sizendaigaku@wine.plala.or.jp)  
Web <http://www.shiretoko-u.jp>

発行日 2021 年 2 月 28 日